

## 自主調査研究報告 [継続報告]

寒地港湾技術の体系化に関する調査研究 (他2A-3-③)	大分類	他2A
	中分類	他2A-3

## 1. 目的

北海道の港湾整備は明治時代から本格的に進められ、その整備に関する資料が当センターに現存している。また、会員から寄贈された貴重な文献も数多くある。これらの歴史的文献には、港湾整備の港湾整備の際の施設計画、予算、整備手法などに関しての経緯や内容も記述されている。

しかしながら、これらの貴重な文献も含め、当センターが保有する様々な技術情報に関する資料は、現在の港湾・漁港整備あるいは研究等に携わる方々に十分利活用されていないのが現状である。さらに、現存する歴史的文献は古いものが多く、印刷の劣化や紛失などの恐れも懸念されている。

当センターが保管する歴史的文献や技術資料は、今後の港湾・漁港整備や研究等の参考として貴重なものであるが、その利活用が少ない現状を踏まえ、より多くの方々に利活用していただき易いような方策を検討する。また、老朽化している貴重な歴史的文献はデジタル化して保存し、会員はもとより広く一般市民にもその存在を知っていただく方策も検討する。

これらの取り組みを通じて、港湾・漁港整備や研究等に携わる方々や当センター会員へのサービス向上を図るとともに、過去からの寒冷地港湾に関する技術・体系を広く蓄積・提供し若手技術者へも伝承することで、当センターの社会的役割の推進を図る。

## 2. 実施内容

令和3年度、関係有識者の協力により、北海道の港湾整備に関して歴史的価値が高く、研究等で利用される可能性があり、他での保管が少ないなどの観点から、貴重性の高い文献を抽出した。また、過去の図書サービス利活用状況について把握し分析をした。

## 3. 主要な結論

貴重性の高い文献は17文献が抽出され、デジタル化して保存することが必要と判断された。また、過去5年間の図書サービス利用を分析したところ、利用者はCPC会員に限定しており年平均8.8人。開発局OBが大多数で、コンサルタント・大学などが僅か見られるが行政機関の現役職員が利用した実績はないなど、幅広い方々に利用していただいているとは言い難い現状であった。利用されたものでは北海道港湾の歴史文献の利用が最も多く、これらは貴重な資料としての役割を果たしていると言えるが、保管する文献・技術資料全体のごく僅かであった。

## 4. 今後の対応

今後、抽出した貴重な歴史的文献の中から老朽化度合いなども踏まえ、随時デジタル化を行う予定である。デジタル化した文献はホームページなどの媒体で広く紹介し、まずは歴史的文献やその他の技術資料の存在を知っていただくなど、図書サービス利活用を促進するための検討と取り組みを進めたい。